

伊勢佐木防犯指導員会（神奈川県）



神奈川県伊勢佐木防犯指導委員会の藤平と申します。同じく渡辺と申します。よろしくお願ひいたします。私たちの伊勢佐木防犯指導会は、昭和46年に結成されました。私はその4年後の昭和50年から入会いたしました。現在は副会長を務めております。こちらの渡辺さんは、平成21年の入会です。うちの指導員会の会長は、設立当初昭和46年からのメンバーで、現在82歳になりますが、元気でパトロール等積極的に参加しております。ただ今年に入って体調を崩しましたので、今日は欠席をして、私たちが代わりに参加をしているということです。どうぞよろしくお願ひいたします。

伊勢佐木防犯指導員会 （神奈川県）



伝統を未来へつなく防犯のリレー

伊勢佐木地区（横浜市中区） の所在地



はじめに、当指導員会の地域紹介から始めたいと思います。私たちの活動地域である横浜市中区伊勢佐木地区は、神奈川県の東部に位置しております。主要な交通網として、JR桜木町管内石川町駅がございます。他にも京浜急行線、横浜市営地下鉄ブルーラインがあります。また横浜港が近く、国道16号線も通っており、この地区はペリー来航による横浜開港以来、横浜の中心地として栄えて参りました。県内でも有数のビジネス街、繁華街といえます。また、御覧の通り横浜の観光名所が集まる場所でもございます。

伊勢佐木地区（横浜市中区） について



今、説明しました私たちの町を写真でご説明いたします。これは、イセザキ・モールをパトロールしている光景ですが、イセザキ・モールは横浜開港以来、港に続く散歩道として、伊勢佐木地区の中心を通る商店街です。明治以来の老舗も立ち並び、ゆずや青江三奈の伊勢佐木町ブルースなど、音楽との縁も深い通りとなっております。日頃より多くの人が集まる場所ですので、ここではよく防犯キャンペーンを行っております。

この写真は、福富町という横浜における有数の歓楽街です。夜間の合同パトロールを継続して行っている地区でございます。

これはランドマークタワーと言って、横浜のみなとみらい地区のシンボルといえる高層ビルです。

最寄駅の桜木町駅前に大きな広場がございますので、こちらでも防犯キャンペーンを行うことがあります。

こちらは横浜市開港記念会館と言って、横浜開港 50 周年を記念して市民の寄付により大正 6 年に開館した、横浜のシンボリックな建築物です。実は私は、ガイドボランティアをやっておりまして、横浜に来た折にはぜひお立ち寄りいただきたいと思います。

こちらはみなとみらい地区の写真です。夜景が奇麗で若い人たちの観光スポットとなっております。機会がございましたら、ぜひ横浜観光にお越しいただければ幸いです。

団体の概要



- 昭和46年8月「犯罪のない明るい街づくり」を目的に民間有志の30代から50代の15人で設立。
- 発足当時の伊勢佐木地区は「犯罪のデパート」と呼ばれるくらい、各種犯罪が発生していた。
- その状況を憂慮した当時の会長が、町内会の有志を募り、当時の伊勢佐木警察署長とも相談をして、県内で初めての防犯指導委員会としてスタート。

伊勢佐木防犯指導委員会 ④

続いて、団体の概要説明に入らせていただきます。私たちの防犯指導委員会は、先ほども申し上げましたが、昭和 46 年 8 月に、犯罪のない明るい街づくりを目指して設立された民間有志の団体です。発足当時は、伊勢佐木町は本当に犯罪が多い町というイメージが持つように、さまざまな犯罪が発生しており、侵入を中心とした窃盗犯もかなり多く出ておりました。それを憂慮した初代の会長が、町内会や自治会の有志を募って、当時の警察署長とも相談をして、この防犯指導委員会を設立しました。県内では初めての防犯指導委員会です。当初 15 名で発足し、現在は 13 名となっております。現在の会長は 82 歳で、平均年齢は 70 歳です。左側のモノクロの写真は私が入会した時の写真ですが、左から 2 番目の青年が実は私です。まだ前髪をかき上げる楽しみがあった頃ですけど、今は懐かしい写真となっております。右側の写真は歓楽街のパトロールの 1 コマ、その当時の写真です。後ろの看板には、今はもう死語となっている言葉も使われておりますので、言ってみれば貴重な写真かとも思います。設立当初は東京オリンピック、万博、オイルショックといったように、日本全体が激動の時代でしたので、治安は悪く、凶悪犯、侵入盗はじめ多数の犯罪が発生しておりました。そこで私たちは鍵のメーカーや電化防犯の設備会社の社長を講師に招いて、研修会を開催し自己研鑽に努めました。その上で夜の住宅街のパトロールや、訪問しての防犯設備の点検、指導、街中での青空防犯教室と名打った防犯設備、鍵等いろいろな設備の指導をして参りました。また、当時はビルの 1 室を借り上げて、従業員を 1 人雇用し、防犯新聞を作成するというのもやっておりました。また会長の自家用車を使って、防犯パトロールをするということもやっておりました。当時は防犯ボランティアという言葉もまだ一般化されていない時代でしたので、行政の資金援助等も無く、活動費用は全て会員の会費と会長の私費で賅っておりました。

活動内容①

～時代と共に変化する活動～

【設立当初の時代背景】

- 東京オリンピックや大阪万博、オイルショックといった日本全体が激動の時代
- 治安は非常に悪く、凶悪犯や粗悪犯が頻繁に発生



- 夜間、住宅街でのパトロール
- 訪問しての防犯指導の実施
- 青空防犯教室と題した防犯教室を開催して、道行く人に住宅の防犯設備の展示や普及活動を実施
- ビルの一室を借り、職員を雇って防犯新聞を発行
- 会長の自家用車を使った防犯広報の実施

【当時は防犯ボランティアという言葉も一般化されていなかった時代】

伊勢佐木防犯指導委員会 ⑤

続いて、団体の概要説明に入らせていただきます。私たちの防犯指導委員会は、先ほども申し上げましたが、昭和 46 年 8 月に、犯罪のない明るい街づくりを目指して設立された民間有志の団体です。発足当時は、伊勢佐木町は本当に犯罪が多い町というイメージが持つように、さまざまな犯罪が発生しており、侵入を中心とした窃盗犯もかなり多く出ておりました。それを憂慮した初代の会長が、町内会や自治会の有志を募って、当時の警察署長とも相談をして、この防犯指導委員会を設立しま

した。県内では初めての防犯指導委員会です。当初 15 名で発足し、現在は 13 名となっております。現在の会長は 82 歳で、平均年齢は 70 歳です。左側のモノクロの写真は私が入会した時の写真ですが、左から 2 番目の青年が実は私です。まだ前髪をかき上げる楽しみがあった頃ですけど、今は懐かしい写真となっております。右側の写真は歓楽街のパトロールの 1 コマ、その当時の写真です。後ろの看板には、今はもう死語となっている言葉も使われておりますので、言ってみれば貴重な写真かとも思います。設立当初は東京オリンピック、万博、オイルショックといったように、日本全体が激動の時代でしたので、治安は悪く、凶悪犯、侵入盗はじめ多数の犯罪が発生しておりました。そこで私たちは鍵のメーカーや電化防犯の設備会社の社長を講師に招いて、研修会を開催し自己研鑽に努めました。その上で夜の住宅街のパトロールや、訪問しての防犯設備の点検、指導、街中での青空防犯教室と名打った防犯設備、鍵等いろいろな設備の指導をして参りました。また、当時はビルの 1 室を借り上げて、従業員を 1 人雇用し、防犯新聞を作成するというのもやっておりました。また会長の自家用車を使って、防犯パトロールをするということもやっておりました。当時は防犯ボランティアという言葉もまだ一般化されていない時代でしたので、行政の資金援助等も無く、活動費用は全て会員の会費と会長の私費で賅っておりました。

上の写真は青空防犯教室の写真です。このように開催しては、今はもう当たり前のようにになっている 1 ドア 2 ロック、ドアチェーンの使用、防犯ブザー、自転車のワイヤー錠、こういった防犯設備の解説や指導を行いました。また下の写真は、当時の伊勢佐木警察署のロビーで、パトロール前のミーティングをしている光景です。その後、私たちの活動は時代とともに変化してまいりました。例えば、風営法の改正に伴って、歓楽街のパトロールを主体的に開始しました。この頃は携帯電

話がまだ普及していない時代で、街中には多数の違法広告物、また公衆電話の中にはいろんないかがわしいビラが貼り付けてあるような状態でした。そのために行政の方から、路上違反広告物追放推進員という資格を頂きまして、これを剥がしたり、捨て看と呼ばれている看板を取り除くなどの活動もしてまいりました。



上の写真は最近の写真ですけれども、歓楽街の福富町という地区における合同のパトロールです。この他にも、大阪の池田小学校の事件をきっかけに子供の見守り活動も始めました。この写真も最近のものですが、管内の小学校での見守りの様子です。さらに、自転車盗が多発した際には、注意喚起の荷札を自転車に取り付けるといった取組を行うなど、犯罪の発生状況や時代の流れを敏感にとらえて、目的意識をもって柔軟にその活動を変化させてきました。

このように会員相互が時代の流れを感じて、主体的に変化させて活動を行っていくことは、長年の活動におけるモチベーションの維持にもつながっていると感じます。



それでは、現在は何んな活動しているのかといえば、もちろん継続して行っている活動も多数あります。町内会や民間事業者の人たちと合同で行っている、歓楽街の夜間パトロール、小学校の下校時間に合わせた子供の見守り活動、また伊勢佐木警察署と連携した防犯キャンペーンなどの広報啓発活動、地元のお祭りの夜間パトロールも継続的に行っております。

活動日数は月に平均4、5回になると思います。ただ、毎回全員が参加できているというわけではなく、私

たちの団体はラフなところがありまして「出られる時、無理をしないで都合のつく時に自分で調整をしてください」という形で参加しておりますので、必ずしも全員が毎回、参加をしているというわけではございません。



またこうして継続している活動とは別に、新たな活動として、防犯グッズの作成を行うようになりました。会全体が高年齢化しているので、昔のように動き回って活発にということができない状態ではなくなりましたので、少し頭を使うようにという感じで、防犯グッズの作成を始めるようになりました。

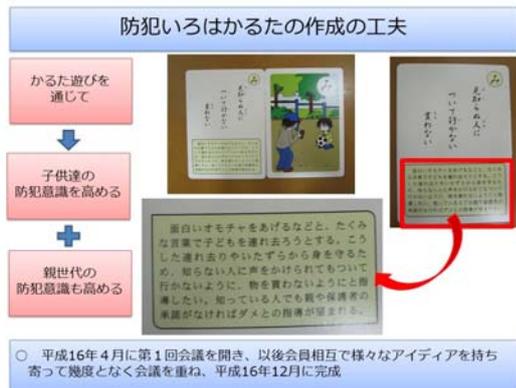
その1つは、子供たちの防犯意識を高めるために、防犯いろはかるたを作成して、地域の幼稚園や小学校に寄贈したり、防犯かるたの大会を開催して、子供たち

に意識づけをしております。写真にもありますが、下の写真は「老人をだますオレオレ電話口」とあるように、かるたを作成した平成16年当時からすでに、特殊詐欺に対する注意喚起を行っております。

右側の下の写真は、警察署の道場で地域の子供たちを集めて行った防犯かるた大会の様子です。何グループかに分かれて取る形をとりましたが、子供たちは大分熱が入り、頭同士をぶつけて、けがをしないかと心配するくらい気合いの入った大会になりました。

ちなみに、このかるたは NHK からも取材を受け放送されたこともあって、その時は全国からの問い合わせがありました。また、かるた専門の会社からも「著作権を売ってくれないか」という話もありましたが、こればかりは後々自分たちも使いたいのでということでお断りしたことがありました。

このかるたの作成から 10 年くらい経過した際に、地元の小学校でかるた大会を開催しました。この時も地域の広報紙にも大きく取り上げられ、再び NHK でも取り上げて放送していただきました。



実はこの防犯かるたは工夫がしてあります。内容は防犯に関連した題材で作られているだけでなく、読み札の下、赤く囲ってあるところに、親の防犯意識が高まるような解説が記載されております。例えば今これは「み」が出ておりますけれども、読み札は「見知らぬ人についていけない、もらわない」なんですけれども、この下には「面白いおもちゃがあるなどと巧みな言葉で子供を連れ去ろうとする、こうした連れ去りや、いたずらから身を守るため、知らない人に声をかけられてもつ

いていけないように、物をもらわないようにと指導したい。知っている人でも親や保護者の承諾がなければ駄目との指導が望まれる」と、それぞれの読み札全部に親の注意喚起も書いてあります。

このようにかるた遊びを通して、子供たちの防犯意識を高めると同時に、親の防犯意識も高めることを目指して作ってあります。このかるたの作成は、平成 16 年 1 月にかるたを作ってはどうかとの話が出まして、第 1 回会議を 4 月に開き、以降さまざまなアイデアを持ち寄りながら幾度となく会議を重ねました。ちょっとこれが楽しみの 1 つでもあったんです。この会議をするたびにちょこっと飲み会を兼ねたといいますか、そういうこともありましたので、みんなで集まって、けんけんがくがくまとめました。できあがったのが 12 月で、冬休みに入る前に何とか間に合い、小学校に寄贈しました。会員みんなで苦勞して作ったこの防犯かるたは、伊勢佐木防犯指導員会にとって、大変良い思い出となっております。

様々な防犯グッズを作成②

防犯塗り絵を作成

- 防犯かるたと同様 子供の防犯意識 + 親の防犯意識
- 区民祭りなどで、子供に色鉛筆とセットで配布

伊勢佐木防犯指導員会 ⑩

様々な防犯グッズを作成③

鶴の恩返し異聞（特殊詐欺注意喚起のハンカチ）

- 特殊詐欺の注意喚起に関する物語を作成
- 「鶴じゃなくてサキ!!!」
- 鶴の恩返しの物語をもとに、特殊詐欺の注意喚起の物語を作成
- ～い様、はあ様、世話になってこんなことを言うのもなんだが、わしは鶴でねえ、サキだ!!!～

伊勢佐木防犯指導員会 ⑩

また防犯グッズ作成の 2 つ目は、子供たちが興味を持って防犯意識を高められるよう、防犯塗り絵です。A6 判の冊子で、防犯かるたをいくらか組み替えるような形で作った塗り絵です。同じように一番端に親の意識を高めるような文書が記載されております。この塗り絵は、防犯キャンペーン

を行う際に、色鉛筆と一緒に子供たちに配布をしております。これ自体、それほどお金はかからないのですが、色鉛筆はちょっとお金がかかり、100円ショップで買ってビニールの袋に入れて子供たちに渡しており、結構人気があります。

近年では、特集詐欺の発生が目立つようになりまして、私たちの防犯活動も特殊詐欺対策に主眼を置くようになりました。こうした中、3つ目の防犯グッズを作成しました。それは、「鶴の恩返し異聞」と銘打って、思い込みの危なさをつづった昔話を作り、ミニハンカチと一緒に袋詰めしたグッズです。キャンペーン、あるいは街頭等で機会があるごとに配布して、啓発に努めております。

今、ポケットティッシュはいろんなところで配られていて、防犯でもポケットティッシュを配っていますが、なかなか受け取ってくれないことが多いのですが、このハンカチだけは必ず受け取ってくれます。そして、文章が表に小さく書いてあって途中までの文章なので、この後何が載っているだろうと、中を開けて全部読んでもらえるということが多いようです。

こういう工夫をして、何とか私たちも新しい挑戦をしているというのが現状です。昔話の内容は、けがをした大きな白い鳥を、じいさまとばあさまが助けるところから始まります。鶴だと思って恩返しをしてもらえと思い込んでいたら、その鳥は鶴ではなくて、鷲(サギ)だったんです。結局、恩返しどころか家財道具を持って逃げられるという物語です。話の終わりに「じいさま、ばあさま、世話になってこんなこと言うのも何だが、わしゃあ鶴でねえ鷲だ」という置き手紙があって、じいさま、ばあさまは初めて詐欺の被害に遭ったということに気が付いたということです。結局「思い込みは危ないよ」という言葉で、特殊詐欺の注意喚起を促す内容になっております。

活動上の課題

構成員の高齢化・人材の確保

- かつては若い世代のみで構成しようと、50歳定年制を企画したときもあった。
- ⇒ 次第に人が減ってしまい、結局、構成員の高齢化が進んでしまった。

資金面の問題

- 設立当初は運営費用を会員の会費や会長の私費で賄っていた。
- ⇒ 会員にとって大きな負担となっていた。

伊勢佐木防犯指導員会 ⑬

課題への取組①

構成員の高齢化・人材の確保

- 各町内会との連携
各町内会と連携をして、町内会から適任者を推薦していただくことで、年齢を問わず、人材の確保をしている。
- 現役世代の会員には無理な参加は求めず、可能な範囲で参加を呼び掛けている。
- 「仲間との活動の楽しさ」「地域に貢献できる喜び」
皆でアイディアを出し合って「防犯かるた」を作る活動、子供安全対策等



伊勢佐木防犯指導員会 ⑬

このように、さまざまな活動をして参りましたが、活動を続けてきたうえで、いくつかの課題もありました。

1つは会員の高齢化と人材確保の苦勞です。当初は若い世代のみで構成しようと、50歳定年制ということで企画した時代もありましたが、次第に人も減ってしまい、結局定年制は廃止となり高齢化が進んでしまったという状況です。

また、資金面でも課題がありました。設立当初、運営費用は会員の会費や会長の私費で賄っておりました。そのため、会員にとって大きな負担となっておりました。こうした問題の解決に当たっては、いくつかの取り組みをして乗り越えました。

まず1つ、人材の確保については、各町内会と連携を密にして、防犯活動に深い理解と熱意を持った人を推薦してもらうことにしました。年齢は問わず、幅広い世代の人材を確保するようにしました。また先ほども申し上げましたが、現役世代の会員もおりますので、無理な参加は求めずに、本業の仕事に負担をかけることがないように可能な範囲で参加してもらい、自発的に気軽に集まれる

雰囲気作りを大切にしてきました。仲間との活動や交流の楽しさ、また地域に貢献できる喜び、そういったものが活動を長く続けてもらえる原動力になっていると思います。

課題への取組②

資金面の負担

- 発足当時の活動資金は、会員の負担であった。
- 昭和47年、活動が日本経済新聞の全国版へ取り上げられたり、当時の会長の働き掛けにより
 - ⇒ 昭和48年に防犯指導員制度が県内的な制度として成立する。
 - ⇒ 神奈川県防犯協会連合会から活動助成金をいただけるようになる。
- 町内会から選出されている会員なので、会費を各町内会で負担してもらった。

伊勢佐木防犯指導員会 ④

課題への取組③

若い世代へのノウハウの継承




- 学生防犯ボランティアが歓楽街パトロールに参加
- 活発な意見交換を実施
- やりがいや私達が経験してきた活動ノウハウを継承

伊勢佐木防犯指導員会 ⑤

資金面の課題について解決した部分は、当初会員の負担でしたけれども、当時の初代会長が働き掛け、日本経済新聞で報道されたことがきっかけとなって、防犯指導員制度が、昭和48年に神奈川県内で制度化されました。それを機に神奈川県防犯協会連合会等からも、助成金をいただけるようになりました。また、町内会から推薦されるということになったので、会員の会費はすべて町内会からいただけるということで話がつき、現在は会員の自己負担は全く無しで活躍をしております。

最近では毎月行っている歓楽街のパトロールの中に、若い学生ボランティアの団体が参加してくれたことがございます。そして、パトロール終了後、意見交換会を行いました。写真はその時の光景です。意見交換の折には、会長から長年の防犯活動を通じて感じてきたことを若い学生に伝え、学生からもたくさんの防犯指導に関する質問をいただくなどして、活発な意見交換会をすることができました。これからもこうした機会があれば、若い世代に防犯活動のやりがいや、私たちが経験してきた活動のノウハウを伝えていけたらいいと思っております。

伊勢佐木防犯指導委員会
時代と、街と、仲間と共に築いてきた防犯活動
伝統を未来へつなぐ防犯のリレー








ご清聴ありがとうございました。

私たち伊勢佐木防犯指導員会は、間もなく50周年を迎えようとしています。今振り返ると、私たちの防犯活動は時代とともに、そして町とともにそして仲間とともに歩み築いてきたものと思います。今や発足当初からのメンバーは、ミヨシ会長だけです。そのミヨシ会長は「長年続けてこられたのは、仲間とのきずなであり、仲間との活動の楽しさが原動力だ」と言い切っております。

これからもこの伝統ある活動を若い人へ、また町の後輩たちへと引き継ぎながら続けていけたらと思います。御静聴ありがとうございました。

講評

木宮 発表ありがとうございました。設立当初は、かなり街の状況も悪くて切迫感があってというところからのスタートだったのかと思いますけれども、現在の活動については、御説明がありましたように楽しく活動する。これは非常に今後の大きなポイントかと思いました。仲間と活動することが楽しい、これがボランティアを長く続ける意義だということについては、設立当初から少し目的が変わってきているのかとも思いますけれども、こうしたことが今後は大事だとは思っています。

また、防犯グッズをいろいろ作られているということで、これについても非常に参考にさせていただきたいと思いました。特に、親の防犯意識を高めるというキーワードですね。これは非常に重要な要素であろうと思います。子供は比較的素直に聞くわけですが、なかなか親の意識を変えるのは難しいと私は常々感じているところです。おそらく親の防犯意識が高まれば、こういった防犯活動に参加する親も増えてくるだろうし、また、町会の活動、最近では町内会に入る親も減っているということもありますので、そういった活動に参加いただけ、当然効果として見えてくるだろうと思います。

そういった親をターゲットにしてグッズを開発するというのは、非常にいいアイデアであると感じました。以上です。ありがとうございました。